京都における川崎病既往学童生徒の管理状況

清沢伸幸

要約：昭和62年から平成２年まで４年間の京都における川崎病既往学童生徒の学校での管理状況について検討した。既往児の頻度は新１年生でみると，小学生では105,873名中685名0.65％。中学生では122,877名中497名0.40％，高校生では102,218名中297名0.29％であった。心エコー検査を小学生94％，中学生86％，高校生81％が入学前に既に受けていた。学校での管理状況はほとんどが３Ｅ可で，Ｅ禁以上は３％にすぎなかった。過去に心エコー検査で異常なしとされていても入学時点でできれば再精査すべきである。

見出し語：学校検診，川崎病再調査票，心エコー検査，心臓病管理指導表

京都では昭和61年度から学校心臓病検診を京都府医師会の心臓検診委員会のもとで統轄的に行なっており，川崎病についても昭和62年度から取り組んできた。今回は京都における川崎病既往学童生徒の管理状況を検討したので報告する。

川崎病の既往児の頻度は昭和62年度から平成２年度までの４年間に入学した新１年生でみると，小学生では105,873名中685名0.65％。中学生では122,877名中497名0.40％，高校生では102,218名中297名0.29％であった（表１）。

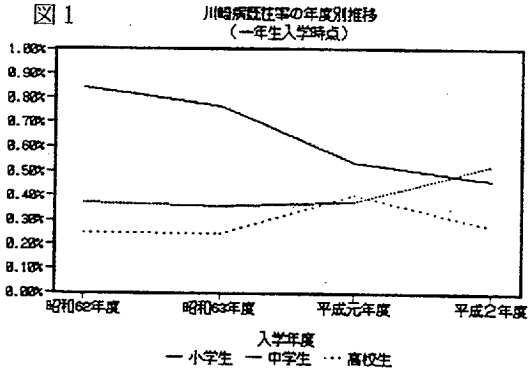
入学時点での川崎病既往率の年度別推移をみると，小学生では0.84％から0.46％に年々減少し，中学生では逆に，0.37％から0.52％まで年々増加

（表１）京都における川崎病既往児（新一年）

		対象数	既往例
小学生	昭和62年度	24921	210(0.84%)
	昭和63年度	26460	203(0.77%)
	平成元年度	27395	147(0.54%)
	平成２年度	27097	125(0.46%)
	合計	105873	685(0.65%)
中学生	昭和62年度	29943	110(0.37%)
	昭和63年度	31099	110(0.35%)
	平成元年度	31275	117(0.37%)
	平成２年度	30560	160(0.52%)
	合計	122877	497(0.40%)
高校生	昭和62年度	25754	64(0.25%)
	昭和63年度	26283	64(0.24%)
	平成元年度	25582	102(0.40%)
	平成２年度	24599	67(0.27%)
	合計	102218	297(0.29%)

京都第二赤十字病院小児科：Department of Pediatrics, Kyoto 2nd Red Cross Hospital

図1



し，高校生では0.25％から0.27％と年度差は少なかった（図1）。小学生で昭和62年度が0.84％と高率になっているのは京都において昭和56年から57年にかけて川崎病の大きな多発があり，このとき発病した子供達が小学校に入学したからと考える。以上から，学童，生徒における川崎病の既往率は若干の年度差はあるものの0.4～0.5％前後と推定される。

心臓病調査票で川崎病の既往ありとした児童生徒については，厚生省川崎病班会議作成の川崎病再調査票によるアンケート調査を行なった。再調査票を回収できたのは小学生533名（78％），中学生316名（64％），高校生223名（75％）で，回答内容について集計した。

心エコー検査を受けたことがあると回答していたのは小学生で502名（94.2％），中学生で272名（86.1％），高校生で181名（81.2％）であった。中学，高校生では年々その頻度が高くなっていた（表2）。心エコー検査の結果で異常ありといわれたものは，小学生で112名（21.0％），中学生で19名（6.0％），高校生で17名（7.6％）と小学生がより高率に異常を指摘されていた。これは心エコー検査が広く実施できるようになったのは昭和56年以後のことで，中学生や高校生ではそのほとんどが急性期に心エコーを受けておらず，発症後しばらくたってからの遠隔期に受けたためと考えられる（表3）。心カテーテル検査を小学生115名（21.6％），中学生56名（17.7％），高校生40名（17.9％）が受けていた（表4）。

（表2）心エコー検査の有無

	小学生	中学生	高校生
受けた	502(94.2%)	272(86.1%)	181(81.2%)
未検査	28(5.3%)	27(8.5%)	27(12.1%)
不明	2(0.4%)	16(5.1%)	14(6.3%)
無回答	1(0.2%)	1(0.3%)	1(0.4%)

（表3）心エコー検査の結果

	小学生	中学生	高校生
異常有り	112(21.0%)	19(6.0%)	17(7.6%)
異常無し	364(68.3%)	242(76.6%)	162(72.6%)
不明	28(5.3%)	25(7.9%)	4(1.8%)
無回答	29(5.4%)	30(9.5%)	40(17.9%)

（表4）心カテーテル検査の有無

	小学生	中学生	高校生
受けた	115(21.6%)	56(17.7%)	40(17.9%)
未検査	315(59.1%)	195(61.7%)	133(59.6%)
不明	98(18.4%)	55(17.4%)	43(19.3%)
無回答	5(0.9%)	10(3.2%)	7(3.1%)

（表5）経過観察（定期的病院受診の有無）

	小学生	中学生	高校生
受診あり	440(82.6%)	204(64.6%)	118(52.9%)
受診なし	87(16.3%)	107(33.9%)	97(43.5%)
無回答	6(1.1%)	5(1.6%)	8(3.6%)

（表6）現在の薬剤服用の有無

	小学生	中学生	高校生
服用中	15(2.8%)	3(0.9%)	8(3.6%)
未服用	192(36.0%)	93(29.4%)	79(35.4%)
不明	95(17.8%)	60(19.0%)	18(8.1%)
無回答	231(43.3%)	160(50.6%)	118(52.9%)

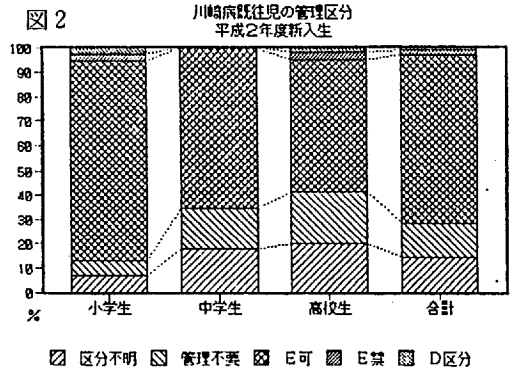
（表7）運動制限の有無

	小学生	中学生	高校生
制限なし	524(98.3%)	299(94.6%)	212(95.1%)
制限あり	1(0.2%)	6(1.9%)	6(2.7%)
無回答	8(1.5%)	11(3.5%)	5(2.2%)

(表8)川崎病既往児の管理区分(平成2年度新一年)

管理区分	小学生	中学生	高校生	合計
2D	1(1%)	0(0%)	0(0%)	1(1%)
3D	2(2%)	0(0%)	1(1%)	3(1%)
2E禁	1(1%)	1(1%)	0(0%)	2(2%)
3E禁	2(2%)	0(0%)	2(2%)	4(1%)
2E可	2(2%)	0(0%)	0(0%)	2(2%)
3E可	92(80%)	107(65%)	35(54%)	234(68%)
4	7(6%)	27(16%)	14(22%)	48(14%)
区分不明	8(7%)	29(18%)	13(20%)	50(15%)
合計	115	164	65	344

図2



定期的に経過観察を受けていたのは小学生440名(82.6%)，中学生204名(64.6%)，高校生118名(52.9%)であった(表5)。学年が上がるにつれてその割合が低下していた。現在も薬剤を服用していたのは無回答が半数を占めていたが，小学生15名(2.8%)，中学生3名(0.9%)，高校生8名(3.6%)であった(表6)。

運動制限の有無について小学生では1名(0.2%)，中学生では6名(1.9%)，高校生では5名(2.7%)が制限を受けているにすぎなかった(表7)。

平成2年度に入学した川崎病既往児について病院から提出された管理区分について検討してみた。ほとんどが3E可で，D区分は小学生3名，高校生1名の計4名であった(表8，図2)。

心臓後遺症を残さない児童，生徒の管理区分をどうすべきか議論が分れている。京都では運動制限不要で経過観察のみの3E可とする医師が多いが，なかには4の管理不要もみられる。一応，専門委員会では心臓後遺症がないため過去に管理不要とされていても学校入学時点で精査を受けることを指導している。以前に心エコー検査を受け異常なしとされていたが学校検診をきっかけとして冠動脈障害を発見された症例があった。

〔症例〕現在高校2年生の男子。3才の時に川崎病を発病し，ステロイドホルモンによる治療を受けた。7才の時に初めて心エコー検査を受け異常なしであった。経過検診は必要とされていたが，中学以後は受診していなかった。高校入学時点で川崎病の既往ありとのことで要精検とされ三菱京都病院にて心エコー検査を受け，右冠動脈瘤に気ずかれた。冠動脈造影を施行されたところ，左前下行枝の完全閉塞と右冠動脈に狭窄がみられたので，両側内胸動脈による左前下行枝と右冠動脈へのA-C Bypass手術を受けた。

川崎病既往児の管理として，長期予後がまだ十分にわかっていない今日においては経過観察が必要である。心エコー機器の開発された当初や遠隔期にはじめて心エコー検査を受けた症例では異常なしとされていても，冠動脈が退縮して見かけ状の異常なしであったり，器械性能の悪さや技術的未熟さによる見おとされている可能性があるので注意が必要である。それゆえ，冠動脈造影をなされた症例を含め経過観察が必要で，最低限，学校入学時点で再精査を受けるべきと考える。

最後に，快よく資料提供していただいた三菱京都病院内科吉田章先生に厚くお礼申し上げます。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:昭和62年から平成2年まで4年間の京都における川崎病既往学童生徒の学校での管理状況について検討した。既往児の頻度は新1年生でみると,小学生では105,873名中685名0.65%。中学生では122,877名中497名0.40%,高校生では102,218名中297名0.29%であった。心エコー検査を小学生94%,中学生86%,高校生81%が入学前に既に受けていた。学校での管理状況はほとんどが3E可で,E禁以上は3%にすぎなかった。過去に心エコー検査で異常なしとされていても入学時点でできれば再精査すべきである。